

出羽三山神社伝統の「新春かるた会」

郷土の誇り 札に込めて

今春統合の羽黒一小最後を飾る

時の羽黒一小の谷口奈美子校長が制作した「出羽三山かるた」の2種。同神社所有の郷土かるたは学校へ貸し出し、冬休みに町内会ごとに子どもたちが練習を積んできた。

この日は全校児童が参加。学年ごとに車座になり、「読みます」の掛け言葉で真剣な勝負を展開。「流人となつて天有法印新島へ」「須賀の滝心身清める月山の水」「湯殿山大きな岩の神体」など羽黒っ子にとってはなじみの内容。競技の開始と終了ははら貝が鳴り、本年度に着任した土井校長らは山伏姿で参加し盛り上げた。かるたは個人と町内会ごとに集計。3年の太谷充輝君(9)は「2回目の競技の時は最初の方で取れなかったけれど最後に取れて、3年連続の学年で1位。いっぱい練習した」と話していた。

同神社では地域と協力しながらかるた大会を継続していく予定という。

出羽三山神社(宮野直生 宮司)伝統の「新春かるた会」が17日、鶴岡市羽黒町手向の同神社社務所大広間で開かれ、地元羽黒一小(土井浩貴校長、児童49人)の児童が郷土を題材にしたかるたに挑戦。同校は今春に学校統合で閉校となるため羽黒一小としては最後のかるた会となった。同神社の社務日誌によると、1950(昭和25)年1月3日に「子供氏子会のかるた会」を開いたのが始まり。外遊びが制限される冬季の児童相互の親睦と仲間意識の向上、郷土理解を深めることを目的にしている。

使用するかるたは、48(同23)年に当時の鶴岡市公民館が発行した「荘内郷土かるた」と、2003年に当

冬休みの練習の成果を發揮した出羽三山神社恒例の「新春かるた会」



3年太谷充輝さんのインタビューが
記事に登場!!

羽黒一小の頑張りは
注目されています!!

目当ての札… あった!!

鶴岡市 羽黒一小 かるた遊び楽しく

新春カルタ会が17日、鶴岡市の出羽三山神社社務所で開催され、近くの羽黒一小(土井浩貴校長、49人)の全校児童が昔ながらの遊びを楽しんだ。

ほら貝の音を合図に開始。児童たちは学年ごと5、6人のグループに分かれ、取り札の枚数を競った。読み手の声に耳を澄ませ、目当ての札を見つけたら、素早く手を伸ばしていた。カルタ会は同神社と地元手向地区が60年以上前から地域行事として開催。古里を題材にした「荘内郷土カルタ」「出羽三山カルタ」の2種類を使用した。



かるた遊びを楽しむ羽黒一小の児童たち
＝鶴岡市・出羽三山神社社務所